

## 竹島水族館運営方法のあり方の検討に向けたサウンディング型市場調査

### 結果概要報告書

#### 1 サウンディング型市場調査実施の経緯

竹島水族館（竹島町1番6号）は、昭和31年に現在の竹島園地にて開館し、その後、昭和37年に現在の場所に移築し、現在まで営業しています。平成18年度より指定管理者による管理運営を開始し、平成21年度からは利用料金制度を導入しています。

現施設は、平成29年度に耐震改修リニューアルを行い、同様の運用で約20年間（令和19年度頃まで）利用することを想定しておりましたが、リニューアル後の想定を超える人気と近年では新型コロナウイルス感染症拡大の影響がありました。

つきましては、竹島水族館をさらに魅力的な施設とするため、民間のアイデアや資金を活用することにより、実現可能かつ効果的な公民連携手法を導入した運営方法を検討するとともに、エリア全体の魅力向上に繋げるアイデアを幅広く募集し、今後の活用方法を検討しています。

本調査は、民間事業者等との「対話」を通じて、公共施設を有効活用する方法の検討につなげることを目的としました。結果をとりまとめましたので、その概要を公表します。

#### 2 サウンディング型市場調査の実施スケジュール

令和4年7月8日	サウンディング実施要領の公表
令和4年8月10日～8月24日	サウンディングの実施
令和4年9月28日	サウンディング結果概要の公表

#### 3 サウンディング型市場調査の参加者

4団体

（大成建設株式会社、株式会社スペース、一般社団法人竹島社中、竹島開発株式会社）

#### 4 意見・提案の概要

(1) 基本的な考え方・コンセプト

・指定管理者制度からPFI手法を用いた運営方法への変更

指定管理者制度は、協定書に基づき業務が設定されており、自主事業による民間活力の活用が図られる内容も盛り込まれてはいるが、運営の自由度は低く、維持管理に重きをおいた制度である。また、長期間の契約でもないため、長期ビジョンが描けず設備投資を行いつらいものである。

一方、PFI手法を用いることで、運営権及び長期間の設定などが可能となり、民間事業者独自のノウハウの活用や積極的な民間投資を促すには適している制度である。自由度の高い運営、民間事業者による設備投資を図ることで、入館者数の増加に繋がることが見込まれる。また、設備修繕が受託者の判断で実施できるため、スピーディーな対応が可能となるとともに委託者である公共の負担軽減も見込まれる。

・竹島水族館単体ではなく、周辺の土地も活用した一体的な運営

PFI手法を用いることで、周辺施設も含めた一体的な管理運営が可能となり、竹島水族館と連携したイベントの企画運営、入場待ち時間を快適に過ごしてもらえる施設の導入など、民間活用による施策で付加価値を高めることができる。また、新たな収入を生むことにも繋がり、地域の賑わい創出だけでなく、維持管理や再投資へと好循環が期待できる。

## (2) 提案する事業

- ・ロードサイド店舗（コンビニ・カフェ・土産物等）の誘致
- ・膜状トランポリンなどの広場と東屋の設置
- ・周辺駐車場の有料化
- ・竹島パークへの施設拡張と水槽の増設
- ・エリカの泉（跡地）を活用したイベントの実施
- ・竹島水族館と周辺施設を合わせた一体的な運営

## (3) その他

- ・耐震リニューアルを行い、施設が維持出来ても水槽などの耐久性に問題あるため、ベイパークにて新設すると、今後の展開として目玉になって良い

## 5 サウンディング型市場調査結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディング型市場調査により、「4 意見・提案の概要」に掲載したとおり、竹島水族館周辺の施設も含めた活用方法に関する様々なご提案をいただきました。また、その活用方法を実現する手法として、指定管理者制度ではなく、PFIという民間のアイデアや資金活用が見込める公民連携手法の一つである運営方法が挙げられました。

観光のまち「がまごおり」の景勝地である竹島のそばに位置し、近年人気を博している施設である竹島水族館とその周辺に対しての市民の注目度は高く、参加事業者の意見・提案からも観光スポットの目玉として利活用を図るべき重要な拠点であると、再認識する結果でありました。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、観光トレンドが変化してきております。その変化に対応するとともに、新たな観光誘客の起爆剤にするためにも、積極的な民間活用を視野に入れた新たな運営方法と竹島水族館の周辺施設を含めた活用方法の検討をしまいにあります。